

せる舊との同僚諸將の手から兵力を奪ひ、遂に天下の兵權政權を國家に統一したのは、即ち長い間に互つた世の亂離の姿を、秩序ある常態に引き戻すことのできた所以であつて、三百年の治を開いた基はこゝに建てられたものといはねばならぬ。

かくの如くにして宋代においては、前來述べた如く、曾て權勢を振つた門閥貴族は既に閉息し、また中唐以來引續き跋扈を極めた武人も勢を失ひ、こゝに天子の政權の障礙となるものは悉く除かれたのであるが、更に太祖は制度の上からも帝權の強化において唐制の上に一步を進めたので、天子の位置權力は名實共に伸展して尊嚴を極むることとなつた。

宋代における文化の普及と生活の向上

文治は宋代政治の精神であり、國初以來學問文藝の保護獎勵に力を用ゐたので、唐末以降萎靡して振はなかつた學術の研究は鬱然として興り、遂に支那の學術史上に特色ある宋學を開くに至り、文學美術の如きも隆盛を極むることとなつた。殊に注意しなければならぬのは、この時代においてこれら學問文藝普及の範圍が單に貴族の間とか、僅の讀書人の間とかに限られず、從來と比較して一般的に擴がり、また天下の諸地方に及ぶことになつたことである。かゝる有様になつたのは、國家の學藝獎勵の大方針によると共に、五代以來分立した諸國の都を中心として、文化開發の地域の擴大されたこと、唐・五代から宋に入つて印刷術がいよゝ盛になり、書物を手にし易くなつたこと、宋の江南に遷つたこと、官吏の任用が科擧の出身者を以てするを常道としたこと及びその他にも原因と